

高校生の就職内定率は73.4%(12月末)。 全都道府県でアップ、4年ぶりに7割超！

(平成16年12月末現在：文部科学省調査より)

平成17年2月 旺文社 教育情報センター

さる2月10日に発表された、文部科学省の就職内定状況に関する調査によると、来春卒業予定で就職を希望している高校生の就職内定率は、16年12月末現在で73.4%と、前年同期比で5.4ポイントアップしたことが判明した。昭和51(1976)年度の調査開始以来、過去最低を記録した14年同期(66.3%)から2年連続でアップし、4年ぶりに7割を超えた。全ての学科(普通科、商業科、工業科など)、全ての都道府県で前年同期を上回っており、高校生の就職事情は全体的に回復傾向にあるといえる。最終的な就職率(17年3月末)は、7年ぶりに90%ラインを超えるものと見られる。

同省初等中等教育局児童生徒課が行った本調査は、国立については国立大学、公立については各都道府県教育委員会、私立については各都道府県知事部局を通じ、全高校を対象に行った“悉皆調査”である。

今回判明した就職内定率(就職内定者の就職希望者に対する割合。以下、内定率)は73.4%で、15年同期の68.0%を5.4ポイント上回るとともに、4年ぶりに7割を超えた。卒業予定者約120.8万人のうち、就職希望者は約22.4万人。このうち就職内定者は約16.5万人、就職内定に至っていない者は約6万人(男子約2.7万人、女子約3.3万人)。

内定率を男女別に見ると、男子は78.4%、女子は67.2%で、15年同期に比べて男子は5.2ポイント、女子は5.4ポイント上回った。ただし、男女差はいまだに大きく(11.2ポイント差)、女子は依然として厳しい就職状況が続いている。

学科別に見ると「工業」(86.0%)、「水産」(74.4%)、「商業」(74.1%)、「農業」(72.7%)、「総合学科」(71.7%)、「家庭」(67.0%)、「普通」(65.8%)、「看護」(60.8%)の順となっている。各学科とも15年同期を上回った。

全都道府県で内定率がアップした。都道府県別に見ると、内定率が高いのは、富山県(90.4%)・岐阜県(88.9%)・愛知県(88.8%)・福井県(86.5%)・三重県(86.1%)...の順となっている。一方、内定率が低いのは、沖縄県(39.7%)・北海道(54.6%)・青森県(57.3%)・高知県(61.1%)・宮城県(62.6%)...の順となっている。また、とくに内定率がアップしたベスト3は、福岡県(64.0%：11.8ポイント上昇)、滋賀県(84.8%：10.3ポイント上昇)、鹿児島県(72.3%：9.3ポイント上昇)であった。

なお、調査結果の詳細については、文部科学省のホームページ(<http://www.mext.go.jp/>)中の「報道発表一覧 平成17年 2月 2005年2月10日」をご覧ください。